

音楽のある街 北区ふれあいコンサート 屯田地区センター

生の音楽は迫力が違う、知っている曲をたくさん演奏してくれるから楽しい——。

来場者から喜びの声が寄せられ、毎回好評を博しているこのコンサート。二〇〇二年から冬と夏の年二回、屯田地区センターと、出演するサツポロシンフォニックバンドが共催し、無料で楽しめる演奏会として続けられています。

プログラムは、多くの人に親しまれているクラシック音楽の名曲や映画音楽など、幅広い世代が楽しめるように構成。これには、普段、演奏会に足を運ぶ機会が少ない人にも、



客席のすぐそばでフルートアンサンブルの演奏を披露

気軽に聴いてもらいたいとの思いが込められています。

今年七月に行われたコンサートでも、アットホームな雰囲気の中で、奏者と聴衆がともに、吹奏楽の楽しさを心行くまで味わっていました。

サツポロシンフォニックバンド

1971年創立。約60人の団員のおよそ半数が北区在住で、年1回の定期演奏会を中心に幅広く活動。創立から指導にあたっている指揮者の鈴木栄一氏とバンドが織りなす響きは「シンフォニックサウンド」と呼ばれ、多くのファンを魅了している。



サツポロシンフォニックバンド団長
佐藤 憲明 さん

「練習場所の確保に苦労する中、そのうちのひとつである屯田地区センターで6年近く演奏会を続けてきて、とても愛着がわいてきているのを感じます。また、聴衆の反応がすぐ伝わってくるのもこのコンサートの魅力。これからも、地域の人々に喜んでもらえる演奏を続けていきたいですね。Kitaraで開催される定期演奏会にも、ぜひ足を運んでください」

【写真】9月9日(日)の定期演奏会に向けて合奏練習中の佐藤さん（一番手前）



屯田在住
井村 静 さん

「第1回から欠かさず来ています。手足が不自由なので、身近なところで開かれるこのコンサートをいつも心待ちにしています。この素晴らしいさを伝えたくて、近所の在宅療養している人たちを誘ったら『元気をもらった』ととても喜んでくれました。以来、熱心なファンになった人もいますよ。音楽の力を実感しました」

【写真】コンサートで指揮者の鈴木氏に花束を贈呈し、笑顔で握手を交わす井村さん（右）

地域に響く「吹奏楽」

迫力のサウンド、繊細な音色。表現の多彩さに魅せられて、多くの人が吹奏楽の演奏を楽しんでいます。今回は、そんな吹奏楽の魅力を伝えようと、地域の身近なところで演奏会を開催している人たちの活動を紹介します。